

2008 年度

科目名	対象学科・学年 人間人社3回生	担当者
認知心理学		中尾 将大
授業テーマ ヒトの記憶と言語の働きを考える。		
授業の概要と目標 ヒトには極めて高度なコミュニケーション能力が備わっている。これによって情報や感情のやりとりが可能になっている。このような能力は言語や記憶、そして知識などいくつかのサブシステムによるもので、これらが互いに連携しながら日常の情報伝達を支えている。本講義ではこの言語・記憶・知識などについて日常例を交えながら情報科学的な視点に立って考察する。		
評価方法 出席、授業中の態度および学期末テストによる総合評価		
テキスト 内容に合わせてプリントを配布	著者	出版社
参考書 言語と記憶	著者 浮田潤・賀集寛	出版社 培風館
授業スケジュール・内容		
1. オリエンテーション	ー授業の説明ー	
2. 情報伝達	ーコミュニケーションとはー	
3. ことばとところ（1）	ーことばの習得ー	
4. ことばとところ（2）	ーことばの特質ー	
5. ことばのはたらき（1）	ー文の成立ー	
6. ことばのはたらき（2）	ー言外の意味 メタファーー	
7. ものを覚えること（1）	ー記憶の区分ー	
8. ものを覚えること（2）	ー符号化のメカニズムー	
9. ものを覚えていること（1）	ーカテゴリーと体制化ー	
10. ものを覚えていること（2）	ースキーマ理論と表象システムー	
11. ものを思い出すことと忘れること（1）	ー検索と忘却のメカニズムー	
12. ものを思い出すことと忘れること（2）	ー記憶の変容と日常の記憶ー	
13. ことばが失われるとき（1）	ーことばの障害ー	
14. ことばが失われるとき（2）	ー記憶の障害ー	
15. まとめと試験		